

第2回「武蔵野三十三所観音巡礼」第4.5.6番寺

2023-10-18 記 大館徹

* 実施日：2023年10月5日(木) 9:00~13:00

* 参加者：20名

第4番 光明山福生院 如意輪寺 ・札所本尊 如意輪観音

ひばりヶ丘駅から住宅地街とキャベツ畑の中を南東に歩いて20分、長いコンクリート塀の先の仁王門に到着。

・明治二十五年(1892)の火災により創建年代などは不明。

・境内には第七世恵定法印の正保四年(1647)の銘がある五輪塔、応長元年(1311)、嘉吉四年(1441)、寛正二年(1461)の板碑が保存されていて700年位前の古い歴史を伝えている。

・現在の本堂は昭和52年(1976)落慶の鉄筋コンクリート造2階建ての壮大な本堂大日殿がある。

本殿2階に大きな尊像の金剛界大日如来の金銅仏(台座の銘文享保五年)見学は成らなかった。

・火災の難を免れて大正2年に移築された観音堂の如意輪観音は保谷の観音様として親しまれていた。

観音堂のなかに馬駈け市大絵馬(141cm×181cm)が懸けられている。市指定文化財であり民俗行事として伝えられてきている絵馬を見学したくお寺にお願いしたら快く承諾得られる事が出来た。お堂の中は薄暗く高い位置に掛けられているのを丁寧に説明していただき如意輪寺のパンフレットまで戴いた。



如意輪寺本堂大日殿



観音堂内の馬駈け市大絵馬

第5番 寶塔山 多聞寺 ・札所本尊 十一面観音(近くに南沢氷川神社)

如意輪寺から西に~住宅街~ひばりヶ丘団地~落合川~多聞寺に歩いて45分~東久留米駅まで歩いて15分

・鎌倉時代の元仁年間(1224~25)、天満宮を祀って梅本坊と称したのが始めとされる。

皇国地誌では1256年に創建、その後3度の大火にあった。現在の本堂は昭和50年(1975)に弘法大師誕生1200年を記念して鉄筋コンクリートで建替えられた。

・天満宮は本堂の中に祀られていて3月25日に開帳するのみである。江戸時代までの神仏習合の伝統が守り続けられているのは貴重である。

・共立学校跡：境内に明治十八年(1885)開校跡があり市指定旧跡となっている。

・多聞寺山門：江戸時代の嘉永五年(1852)頃の建立。総檜造りの四脚門で柱、梁などの飾り彫刻はすばらしく重厚な趣を感じさせている、市指定文化財

・三基の板碑：当寺の中興から三代住職逆修供養板碑で寺院と直接関わっている板碑であり歴史的価値は大きいと言われている。市指定文化財であり本殿内に収納されていると言われ見学できなかった。

・東久留米七福神霊場の一つに加えられた毘沙門天である。



参加者集合写真 山門 多聞寺本殿

第6番 安松山 全龍寺 ・札所本尊 一葉観音（近くに日枝神社水天宮）

東久留米駅から電車～清瀬駅～全龍寺に歩いて15分～帰り清瀬駅迄歩いて15分

・創建は当地に住んでいた並木主水安松が開基となり慶長元年（1596）に建立、その後2度の火災にあい、寺宝などを消失した。境内に七福神像、仁王像、石燈籠、十六羅漢の石像、廻し七福神などが並ぶ。

一葉観音：右膝を立てる輪王座という座法で、一枚の蓮の葉の上に座した姿の木像である。本体は秘仏として本殿の厨子に祀られて拝することはできない。庫裡や本堂の入り口に模刻像があるのでそこで礼拝してきた。旅の無事を祈る人々に広く信仰されてきて空海、円仁の祖師方をはじめ、野口英世博士なども交通の安全や水難から身を守ってくださる観音様として信仰されたと云われている。



全龍寺本殿



一葉観音（模刻像）

担当 A グループ大館徹・谷恵子・中村恵子・黛雅昭・室井静美
約一万6千歩全員完歩出来ました
参考資料：武蔵野三十三所観音巡礼